

赤道ギニア

【国名】

- 赤道直下に位置することを示すべく名づけられたが、正確には赤道は南隣の国ガボンを通る。ギニアは西アフリカー帯とその海岸（ギニア湾）を漠然と指す名称で、ベルベル人の言葉で「黒い人々」という意味がある。

【国旗】

- 青は海を，緑は豊かな自然を，白は平和を，赤は独立闘争で流された尊い血を表す。



- 紋章の木は神木パンヤの木，赤道ギニア国旗
上部の星はそれぞれ国土を構成する5つの島と大陸部のムビニを表し，下部には国のモットー「団結・平和・正義（Unidad, Paz, Justicia）」の語が記されている。

【国土・気候】

- 国土は、ギニア湾に浮かぶ火山島であるビオコ島（首都マラボが所在）を中心とするアンノボン島等の5つの島々と、アフリカ大陸中西部のギニア湾に面する飛び地（ムビニ）で構成されている。
- 面積は約2.8万km²（四国の約1.5倍）。首都はマラボ。人口は約127万人。
- ビオコ島はカメルーン火山系の一部をなす火山島で標高3,007mの円錐火山マラボがそびえる。標高700mまでは湿潤森林地帯だが、700～1,500mでは多雨地帯で熱帯雨林が広がる。島の南斜面は世界的な多雨地帯。
- 大陸地ムビニの大部分は低い丘陵地帯で高温多雨であるため厚い熱帯雨林で覆われている。人口の7割以上が大陸部に居住している。

【言語】

- 赤道ギニアはアフリカ諸国で唯一スペイン語を公用語としている。

【国花：パンヤの木】

- 国花は、国旗にも描かれているパンヤの木。種子から植物油がとれるため神の木と呼ばれる。
- 熱帯性気候に生育するアオイ科セイバ属の落葉高木で、樹高 40m 近くの高さに成長する。
- パンヤとは繊維を意味し、実から取れる繊維は撥水性に優れ、枕などの詰め物やソフトボールの芯、救命胴衣にも利用。
- 近年この繊維が油を大量に吸収することが判明し、油吸収材として使用されている。実の大きさは 20 cm ほど。
- 20 世紀初頭にアフリカ各地でパンヤの木のプランテーションが行われ、海外に輸出された。
- パンヤの白い樹幹は柔らかく加工しやすいため、家具や丸木等の材料として用いられる。

【カカオ】

- アフリカにおけるカカオの栽培は、赤道ギニアのビオコ島で始まり、黄金海岸（現在のガーナ）へと広まった。

【石油開発】

- 古くからギニア湾内は有望な油田が存在するとされ、1980年代から積極的な探索が行われてきた。
- 1990年代に入り、原油生産が開始されると油田探索の熱は最高潮となり、稼働している探査チーム数はアフリカ諸国の中で最大数となった。
- 2007年からはLNGの生産も始まり、国民一人当たりGDPも20,000米ドルを超えたこともあったが、2014年からの油価下落で経済が停滞し、多くの国民は未だ貧困状況にあり、社会開発の遅れが問題になっている。
- また、石油・天然ガスの国際市場価格の変動に国家歳入は多大な影響を受けるところ、財政の安定化のためにも産業の多角化が喫緊の課題となっている。

【サッカー】

- 赤道ギニアで最も人気のあるスポーツは、周辺国同様サッカー。1984年に初の国際試合を実施。
- 2002年のワールドカップから予選に参加しているものの未だ出場を果たせずにいる。
- 2012年には、ガボンと赤道ギニアが、アフリカ・ネーションズ・カップ（CAN 2012）を共同開催し、赤道ギニアは予選リーグを突破、準々決勝で強豪コートジボワールに敗れたものの、初のベスト8進出を果たした。
- また、2014年11月、エボラ出血熱拡大の恐れを理由に開催延期を申し出ていたモロッコに代わり、急遽、赤道ギニアが2015年1月17日から2月8日の日程でCAN2015を単独開催、ホームの熱烈な声援を受け、初の4位となった。（了）